



発行所
日本書店商業組合連合会
〒101-0062 東京都千代田区神田
駿河台1-2-2 書店会館内
電話 03(3294)0388 FAX 03(3285)7180
E-mail info@n-shoten.jp
年間購読料 = 7,350円 (税込)
http://www.shoten.co.jp

平成25年理事会日程

1月	休会
2月20日(水)	21日(木)
3月	休会
4月17日(水)	18日(木)
5月15日(水)	16日(木)
6月	委員会 19日(水)
	理事会・総会 20日(木)
7月17日(水)	18日(木)
8月	休会
9月18日(水)	19日(木)
10月	休会
11月	休会
12月18日(水)	19日(木)

万引犯罪発見後の処理 全件警察に通報は75%

万防機構 小売業万引被害実態調査

この調査は、全国万引犯罪防止機構が全国の小売業・サービス業における万引被害の現状を把握するために毎年実施しているもの。調査票を郵送配布・郵送回収する形、今回は26業態930社を対象に行い、有効回収数は25業態300社(有効回収率32.3%)。回答企業の業態別分布は、企業数の多い順に次の通り。

- スーパー73社、百貨店40社、コンビニ・ミニスーパー29社、ドラッグストア20社、生活協同組合19社、ホームセンター・カー用品14社、スポーツ用品12社、婦人服・子供服、書籍・文具各11社、その他専門店9社、宝飾品8社、服飾・服飾雑貨、時計・めがね各7社、紳士服6社、カシメラル衣料、家電製品、靴、総合アパレル各5社、呉服、家具各3社、楽器・CD、酒類、生鮮各2社、玩具・ホビー用品、100円ショップ各1社(カマフラは回答社なし)

直近決算年度における万引犯罪被害件数を聞いたところ、この質問の有効回答244社の被害総件数は7万3214件で、1社平均では300件となった。平均件数の多い業態は、スーパー884件、ホームセンター1・カー用品729件、

ドラッグストア313件、総合アパレル221件、書籍・文具100件となっている。確保した「捕まえた」万引犯の人数は、有効回答257社の総人数が5万6435人。平均人数の多い業態は、ホームセンター・カー用品516人、総合アパレル514人、スーパー345人、書籍・文具177人だった。

確保した万引犯の男女別内訳は、男性60.3%、女性38.6%。職業別内訳は、無職の34.1%をトップに、主婦19.4%、社会人12.7%、不明10.4%とあがった。

万引被害金額について1年前と比較したときの増減傾向を聞くと、「変わらな」が最も多く25.3%、「大増えた」と「やや増えた」を合わせた「増加」が21.6%、「大減った」と「やや減った」を合わせた「減少」が25.4%となった。

特賞は57912番

「読書週間書店くじ」抽せん会

- 第39回読書週間書店くじ当せん番号
- 特賞 5万円 (図書カード)
 - 各組共通 下5桁 57912
 - 1等賞 1万円 (図書カード)
 - 各組共通 下4桁 3700 7024
 - 2等賞 1千円 (同上又は該当図書)
 - 各組共通 下4桁 3277 4184 4895
 - 3等賞 500円 (同上)
 - 各組共通 下3桁 125 563 645
 - 4等賞 100円 (図書購入時に充当)
 - 各組共通 下1桁 9

特賞は当せん券を读者より直接日書連事務局まで送付。1等から4等までは実施書店でお引き換えください。ハズレ券10枚で「ダブルチャンス賞」の応募が出来ます。当せん番号の発表は12月5日(水)です。



第39回「読書週間書店くじ」の抽せん会が11月14日午後2時から書店会館で開催され、日書連役員、出版社、取次、関係会社の立会いのもと、当せん番号を決

定した。抽せん会は、これまでホテルなどの会場を借りて行ってきたが、経費削減のため書店会館での開催に変更した。日書連書店再生委員会・松坂英雄委員長の前で進行し、大橋信天会長が「厳しい状況の中、節約というところでこういう形式で抽せん会を行うこととした。ご協力をお願いする」と抽せん箱の中から数字のカードを引き、当せん番号を決定した。

抽せんは、0から9までの番号を記した10枚のカードを抽せん箱に入れ、中からカードを1枚取り出す方法により実施。日本書籍出版協会・中野英樹専務理事、日本雑誌協会・購買発助専務理事、日本出版取次協会・金田徹書籍研究委員会委員長、日書連・大橋信天会長、日本図書普及・平井茂取締役が1番から5番までの抽せん箱を担当し、順番にカードを引いて特賞から3等賞までを決定。最後に日本図書普及の濱田博信社長が4等賞の番号を引いて当せん番号を決めた。

万引犯罪の処理方針で、警察に「全件通報」または「一部通報」と回答した企業に、書類作成等で警察に居た平均時間を聞くと、「1〜2時間」が最多で37.8%。次いで「30分〜1時間」31.6%、「2〜3時間」12.0%、「30分以上」6.9%、「30分以下」4.4%だった。警察の対応時間を昨年と比較

すると、「変わらな」が56.7%、「短くなった」20.4%、「わからない」14.5%、「長くなった」1.8%となっている。また、警察に居た時間の中で「手間と感じた手続き」は(複数回答)、警察に行くこと「参考人調査」がともに43.3%。次いで「被害届」40.4%、「実況見分」29.5%、「証拠関係」18.9%。警察での参考人調査と被害届の負担感が大きく、手続きの簡素化が求められている。

店内捕捉実施は約10%。回答各社が店舗レベルで実施している万引犯罪防止策は(複数回答)、「従業員にお客様への声かけをさせている」が最も多く85.3%。次に「防犯カメラをつけている」78.0%となった。このほか多かったのは、「保安警備員を配置させている」44.0%、「商品陳列を工夫させている」43.0%、「店内ボスター、掲示物等を作り貼らせている」40.3%。